



発行こいで義一後援会 事務所〒475-0828 半田市瑞穂町5-3-18 ☎0569-58-0967 発行日平成25年10月25日
 編集責任者こいで義一 連絡所〒475-0078 半田市新池町2-201-22 ☎0569-29-0616

学校給食の広域化を考える

安全な食材は？



食の安全は確保されているか

今年の6月に、「奇跡のリンゴ」という小説が映画化され話題になりました。りんごは、明治時代に持込まれた外来種だそうです。日本の風土で育てるには、農薬や化学肥料が欠かせないとのことです。このため生産者の中には、農薬の影響で健康を害する方も見えるようです。映画は青森のリンゴ農家の主人が農薬の影響で健康の優れない奥さんのために、無農薬・無肥料の栽培に取り組むお話でした。結末は、7年間の苦労の末有機栽培による美味しいりんごを収穫し、奥様も健康を取り戻すお話でした。この「奇跡のリンゴ」から、生産者の思いで安全な作物が育つことに気づき、同時に何気なく口にしている食物の安全性に目を向ける必要を感じました。そこで、最近の農業に関連したニュースに目を向けてみました。

生産者の顔が見えてこそ食育…

「農薬の検出」に関連する事件は、右表の様に頻繁に発生しています。基準値を超えた農薬は立入検査で検出したもので、見過ごされた事例も相当数あると思われます。収穫前日に除草剤を散布して出荷した事例や、認可外の農薬が検出された事例もあります。野鳥や魚が死んでいたのも、農薬の乱用が要因とされます。果たして、食の安全は守られているのか。基準外の農産物の流通を、もっと意識する必要があります。学校給食は、発達途上の子どもたちが対象です。安全で良質な食材の確保を目指すべきです。そのためには、「生産者の顔が見える食材」が一番です。

学校給食は広域連携で安全の確保を…

学校給食での地産地消の推進は、山梨県静岡県富士市などでも既に取組まれています。安全な食材供給のためには、農家と農薬使用に自主基準や散布手順などのルールの協定を結ぶ必要があります。この仕組みづくりは、単独自治体での実施は困難だと思います。その為にも近隣市町との連携や市場など協力を求める必要があります。学校給食の目的に「食育」が掲げられていますが、まずは「生産者の顔が見える食材」で安全な給食の提供ができる体制づくりを優先すべきだと思います。

最近の農薬検出ニュース

9月30日	神奈川県でスズメ 110羽の死骸から。(毎日)
9月20日	高知県で青玉ユズから無許可農薬。(共同通信)
9月20日	岡山県で魚約800匹の死骸から。(山陽)
8月24日	長野県JA佐久浅間のセロリから。(msn産経)
8月10日	長野県JA川上のハクサイから。(毎日)
8月6日	青森県JA青森のピーマンから。(陸奥新報)
7月15日	岡山県JAおかやまでナスから。(日テレ)
6月28日	埼玉県でドバト5羽の死骸から。(スポニチ)
5月24日	大阪府で中国産のティーバッグ。(新華経済)
5月19日	千葉県旭市のシュンギクから。(朝日)
5月17日	宮城県産コマツナから。(毎日)
3月8日	大阪府泉佐野市で烏龍茶から。(共同通信)
2月23日	山口県山口市でイチゴから。(山口県)



地域共生ホーム 全国セミナーに参加して!

地域の支え合いを前提に…

国の高齢者化率は、今年9月に25%となりました。専門機関の推計によると、約20年後には33.4%となると見込まれています。半田市の高齢者比率は今年3月末で21.2%と、国の平均より若干下回っていますが、推計値同様の超高齢社会を迎えることは避けられません。高齢者の体力は向上しており、すべてが弱者というわけではありません。地域の人材や資源を活かして、みんなで一緒に歩むことを考える必要があります。具体的な取り組みとするためには、まだまだ研究の余地は多いと思います。先進事例を学ぶために、富山国際会議場であった富山型のデイサービスを主題にしたセミナーに参加してまいりました。



富山型は多世代共生を実践して…

セミナーでは、富山型と言われるデイサービスの運営を中心に、認知症や発達障がいや終末期医療などについて認識を深めることができました。富山型のデイサービスは、乳幼児から高齢者まで、また障害や認知症の方などを、幅広く受け入れている施設でした。認知症や発達障害の方への対応は、利用者と施設側の関係ではない同じ目線の対応が必要なのだと思います。利用者と施設スタッフといった意識が見えない様子や、“親子でないけど大きな家族”という表現をしていたところが印象的でした。

私たちの福祉は私たちの手で…

個人差はありますが、加齢とともに気力や体力が衰えて、場合によっては支援や介護が必要になります。どんな場合になっても、気力・体力が衰えにくい環境が必要です。富山型のデイサービスは、様々な方が一緒に利用することで、理想的な居場所の形成に成功しているように思いました。このような事例を参考にしながら、私たちの街に必要な福祉のあり方につ

いても、今後“市政を語る集い”などの場で、皆様のご意見を伺ってまいりたいと思っています。ご協力、宜しくお願い致します。



ふるさと発見

江戸から続く下半田祭礼

下半田地区は、江戸時代から海運業と共に醸造業が盛んで、祭礼の歴史もこの産業の発展とともにあり、元文四年(1739)の文書に“神輿と山車”が存在した記録があります。現在も春祭礼には業葉神社から山ノ神社へお神輿の渡御に山車が供奉する形式を残していますが、山ノ神社の社殿の東側にある手水鉢には“宝暦十庚辰(1760)”と刻まれており、この時代から続く祭礼であることを物語っています。

